

## 平成 23 年日本熱物性学会第 1 回(2011-1)役員会議事録

日時：平成 23 年 1 月 22 日(土) 理事会 10：00～13：00 役員会 13：00～16：45

場所：芝浦工業大学豊洲キャンパス 研究棟 5F 大会議室

出席者：(五十音順・敬称略)

赤坂亮(九州産業大学)	太田弘道(茨城大学)
片岡秀文(釧路工業高等専門学校)	川南剛(神戸大学)
熊野寛之(信州大学)	佐藤春樹(慶應義塾大学)
佐藤真奈美(大阪工業大学)	佐藤讓(東北大学大学院)
柴田浩幸(東北大学)	高田保之(九州大学)
高野孝義(豊田工業大学)	高橋一郎(山形大学)
田口良広(慶應義塾大学)	竹歳尚之(産業技術総合研究所)
田中明美(日本女子大学)	長坂雄次(慶應義塾大学)
馬場哲也(産業技術総合研究所)	春木直人(岡山大学)
東之弘(いわき明星大学)	福地賢治(宇部工業高等専門学校)
藤野淳市(福岡大学)	麓耕二(弘前大学)
本間寛己(松江工業高等専門学校)	牧野俊郎(京都大学)
正木匡彦(芝浦工業大学)	宮崎康次(九州工業大学)
宮本泰行(富山県立大学)	桃木悟(長崎大学)
山口朝彦(長崎大学)	山田盛二(敷島製パン)
山田修史(産業技術総合研究所)	山田純(芝浦工業大学)
山本泰之(産業技術総合研究所)	渡辺博道(産業技術総合研究所)

**審議事項：**

高橋前期会長よりご挨拶があった。平成 22 年の活動に対して謝意が述べられた。本日は覚書の確認が重要議題であるとの説明があった。馬場会長よりご挨拶があった。新しい取り組みとして熱物性ハンドブックの改訂やデータベースの充実にも取り組みたいとのこと。佐藤讓副会長よりご挨拶があった。任命され驚いたが、運営の知恵を出していきたいとのこと。その後、各役員から自己紹介があり、山田事務局担当より名簿のチェックの依頼と、配布資料の確認が行われた。

**(1) 前回議事録確認**

田口評議員より、資料 11-1-1-③に基づき、前回議事録の確認があった。議事録の(11)その他の覚え書きに関する記述のうち、「第 5 章 1、2 に関して」を「第 5 章 2 に関して」に変更し、一部の誤字を修正することで、了承された。

**(2) 学生ベストプレゼンテーション賞の選考結果報告について**

佐藤春樹企画担当理事より、資料 11-1-2 に基づき、学生ベストプレゼンテーション賞の審査について説明があった。佐藤翼様(慶應義塾大学)、田崎ちひろ様(青山学院大学)、眞下央様(東北大学)、諸星圭祐様(東北大学)の 4 名に贈ることになったとの報告があった。シンポジウムの 3 会場のそれぞれから、受賞者が出たことはバランスがよく、良かった。今回から会員登録をしていることが条件となったこともあり、応募が前回の 45 名から今回は 28 名となり少なくなった。採点方法を変更し、10 点満点を 5 点満点にした結果、点数に大きな差が付き選考しやすくなった旨の説明があった。発表に関して 3 割、質疑に関して 7 割の配分にした。審査の際に学生の学年、学部・修士・博士が明示されていると良いのではと

の意見があるので、検討することになった旨の説明があった。シンポジウム実行委員会に活動委員が 1 名加わることにする旨の説明があり、了承された。

### (3) 第 31 回日本熱物性シンポジウム報告

高田実行委員長より、資料 11-1-3 に基づき、第 31 回日本熱物性シンポジウムの報告があった。参加人数は総数 226 名、講演件数 106 件で前回より少し減った。3 件の講演取りやめがあった。宇宙関係の OS が、他の集会と時期がかぶったために設置できなかったのが残念だった。企業展示は 8 社あった。11 月 18 日には創立 30 周年記念シンポジウムを開催した。第 31 回日本熱物性シンポジウムの収支決算報告があり、了承された。

### (4) 覚え書の確認

山田純事務局担当より、資料 11-1-4 に基づき、運営に関する覚え書の変更事項について説明があった。〈3〉1. (6) 2)~4) の記述を「承認する」から「報告し了承を得る」に変更した件、〈4〉8.印刷部数の表に第 31 回の分を追加し、残部数の情報等の欄を削除した件、〈7〉2.論文集の記述を 31 回の分を含むように変更した件について説明があった。高橋一郎前期会長より、第 5 章の慶弔の規定に関して説明があった。これまでは、会員に慶弔があった場合、その時々で対応していたが、混乱を避け、事務局、編集委員の負担を軽減するためにも、規定を設けることにした。名誉員、功労賞受賞者、会長・副会長およびその経験者が死去などの重大な事故のあったときには、弔意を表す、とした旨の説明があった。弔辞の掲載依頼があった場合、情報が寄せられた段階で編集委員、会長、副会長の協議により、その都度判断することになった。山田純事務局担当より、理事会、役員会の交通費の支給に関して、覚え書の〈8〉2. (3) の説明があり、了解いただきたいとのことであった。覚え書の変更は、了承された。

### (5) 平成 22 年活動・決算報告について

長坂前期事務局担当より、資料 11-1-5-①に基づき、第 31 期(平成 22 年)活動報告の説明があった。資料 11-1-5-②に基づき収支決算の報告があった。収支決算書は、太田弘道監事、渡辺博道監事の押印があるものを回覧した。資料 11-1-5-③に基づき残高証明書の確認と、収支明細書の説明があった。シンポジウム実行委員からの収入の記載方法は、現在の方法を採用することになったとの説明があった。名誉員の年会費は、寄付金として記載しているとのこと。30 周年記念事業に関して一部の追記を行うことと、誤字を修正することで、活動報告、収支決算書は了承された。

### (6) 平成 23 年事業計画について

馬場会長より、資料 11-1-6 に基づき、第 32 期(平成 23 年)事業計画について説明があった。第 32 回日本熱物性シンポジウムを 11 月 21 日~23 日に予定しており、実行委員を中心に準備をお願いしたい。第 33 回についても関西地区の評議員を中心に準備をお願いする。次の熱物性ハンドブックの改訂について、モノグラフ化、英語化、電子出版などをキーワードに、新しい取り組みを検討していきたいとのこと。分科会活動では、水にかかわる熱物性(仮題)分科会を新規に立ち上げたい。低温環境、高温融体については継続、マイクロ・ナノに関しては出版準備に取り掛かるとのこと。資料では宇宙材料の熱物性とシステムデザインに関して、出版となっているが、継続であり、出版準備にも取り掛かるとのこと、資料を修正する。新しい分科会である水にかかわる熱物性に関して、熱物性は範囲が広いので、水と関わる対象も多い、興味深いテーマになるだろうとのこと。事業計画については、宇宙機に関する分科会の「出版」の記述を「継続」に修正し、記載の順を変更し、企画事業の 30 周年記念出版のタイトルを「宇宙機のシステム熱設計」に変更することとして、了承された。山田純事務局担当から、水にかかわる熱物性の研究をされている方は幅広い分野にいると考えられるので、ご紹介いただきたいとのお願いがあった。

## (7) 平成 23 年予算案について

山田純事務局担当より、資料 11-1-7 に基づき、第 32 期の収支予算書の説明があった。事業計画と収支予算書は、了承された。

## (8) 第 32 回日本熱物性シンポジウム準備状況について

長坂実行委員長より、資料 11-1-8 に基づき、第 32 回日本熱物性シンポジウムの準備状況について報告があった。会期は 11 月 21 日(月)～23 日(水)で、例年と比べて遅いことと、月曜日から水曜日となって例年と異なることについて、学事等の都合で他に選択肢がなく、了承いただきたいとのこと。会場は慶應義塾大学日吉キャンパスの来往舎と協生館で、教室は用いない。OS が 20 件程度になるように計画している旨の説明があった。宿泊の案内はするのかとの質問があったが、日吉は渋谷からも横浜からも便がいいことから案内はしないとのこと。

## 第 33 回日本熱物性シンポジウムについて

佐藤真奈美実行委員より、第 33 回日本熱物性シンポジウムの準備状況について報告があった。梅田を中心に会場を探しているがまだ確定していないとのこと。

## (9) 創立 30 周年記念事業報告

牧野 30 周年記念企画実行委員長より、資料 11-1-9 に基づき、30 周年記念事業の報告があった。記念事業として、(1)ホームページの改訂を宮崎広報理事を担当として行ったこと、(2)学会の学術財産の集約のために日本熱物性シンポジウムの講演論文集、ATPC 論文集、学会誌「熱物性」のデジタル化を行い DVD を出版したこと、(3) 記念誌「研究のベクトルと学会のベクトル」を発行したこと、(4) 福岡での熱物性シンポジウムの際に記念祝賀会と記念シンポジウムを開催したこと、(5) 記念出版として「ナノ・マイクロスケール熱物性ハンドブック(仮題)」と「宇宙機のシステム熱設計」の出版を予定していることの報告があった。協力していただいた皆様への感謝が述べられた。記念事業の報告を熱物性学会誌に載せる際はカラーでお願いしたいとのこと。記念祝賀会の収支報告がなされ、了承された。長坂前期事務局担当より、記念事業は 3 年にまたがる事業であったことから、最終的な会計報告は平成 23 年総会議事案に、平成 21 年、22 年、23 年をまとめて掲載の予定である旨の説明があった。一部の誤字の修正をすることで、創立 30 周年記念事業報告は、了承された。

## (10) 各種委員会報告

### 表彰委員会

牧野表彰委員会委員長より、資料 11-1-10-0- (1) に基づき、学会賞の授与について報告があった。第 31 期学会総会において、論文賞を迫田先生(九州大学)、奨励賞を熊野先生(神戸市立工業高等専門学校)ならびに田中先生(いわき明星大学)、功労賞を藤井先生(産業技術総合研究所)に贈賞した。名誉員に、服部先生、渋川先生、福迫先生を推挙し、創立 30 周年記念祝賀会において顕彰した。学会事務局の事務の貢献に関して、木村公美子様、吉井麻理子様、加藤和憲様、小野塚紀子様様の 4 氏に、創立 30 周年記念祝賀会において感謝状を贈呈した。学会賞の報告の原稿の、渋川先生のお写真を変更したいとの申し出があった。また渋川先生の略歴に誤りがあったため、修正追記をしたとの説明があった。資料 11-1-10-0- (2) および資料 11-1-10-0- (3) に基づき、平成 23 年日本熱物性学会賞の候補の募集について説明があった。昨年の奨励賞の募集文に誤記があったため、お詫びを記載し、本年に限り 36 歳以下とすることの説明があり、了承された。牧野表彰委員会委員長より、学会賞へ多くの方が応募・推薦してほしいとい

う強い要望が述べられた。

### 編集委員会

東編集委員会委員長より、資料 11-1-10-1 に基づき、会誌「熱物性」の編集委員会活動報告があった。熱物性 Vol. 25, No. 1(2011) 2月号を準備中とのこと。30周年の企画のカラー写真をどの程度掲載するか検討しているとのこと。分科会の成果を特集号として掲載することも検討していただきたいとのこと。熱物性シンポの講演論文集が J-STAGE に移植され閲覧が可能になっているとの報告があった。牧野役員から、J. Heat Transfer Asian Research に英語訳を掲載することを勧誘しているとの説明があった。

### 熱物性サービス委員会

山田修史熱物性サービス委員会委員長より、資料 11-1-10-2 に基づき、熱物性サービス委員会の活動報告があった。アクセス件数は毎月平均 7,800 件であった。今年も引き続きサービスの強化を進めてゆく。資料 11-1-10-2(10-2-8)に基づき、熱物性データベースの公開方法について説明があった。馬場会長より、非会員にも利用者を広げるため、コンテンツの充実度を伝える仕組みを作りたい。物質名、物性名までの索引を閲覧可能にし、収録データを把握できるようにする旨の説明があった。

### 活動委員会

桃木活動委員会委員長より、資料 11-1-10-3 に基づき、活動委員会の活動報告があった。平成 22 年は 30 周年記念事業、学生ベストプレゼンテーション賞を実施してきた。活動委員会に関する提案として、1. 研究分科会から 1 名ずつを活動委員として推薦頂き、複数メンバーによる組織を作りたい、2. 研究分科会のルール作りを行いたい、3. 学生ベストプレゼンテーション賞の実施をシンポジウム実行委員会に一任したい、とのことであった。1. の提案については、了承された。2. の提案については、覚え書の<3>1. (7)に研究分科会についての規定が既にあるが、分科会の自由な雰囲気を見失わない形でルール化をお願いしたいとの意見が述べられ、了承された。3. の提案については、引き続き活動委員が学生ベストプレゼンテーション賞の実施を担当することとし、シンポジウム実行委員会との連携の必要性から、活動委員会のメンバーを一人、今回は桃木活動委員会委員長がシンポジウム実行委員会に参加することになった旨の説明があった。

### 広報委員会

宮崎広報委員会委員長より、資料 11-1-10-4 に基づき、広報委員会の活動報告があった。HP を整備し、メーリングリストを更新しているとのこと。

### 研究分科会

#### マイクロ・ナノスケールの熱物性とシステムデザイン

宮崎オーガナイザーより、資料 11-1-10-5-①に基づき、研究分科会の活動報告があった。熱物性シンポジウムでは、関連する OS に全体の 1 割～2 割の講演申込があり、大変盛況であった。発足して 5 年になるので、本年で終了する。30 周年記念事業での記念出版を準備中である。題名は「ナノ・マイクロスケール熱物性ハンドブック」となる予定。研究分科会の残金は出版準備の活動費に充てたいとのこと。

#### 生活環境懇話会 II

山田純オーガナイザーより、資料 11-1-10-5-②に基づき、研究分科会の活動報告があった。去年は料理に関するテーマを取り上げた。親子で体験するサイエンスクッキングを東京ガスと共催して行い、好評であった。女性研究者、女性エンジニアの増加に多少でも貢献できればという意図もあった。熱物性学会誌 2 月号に報告を掲載する予定で原稿を集めている。本分科会の活動は終了し、内容的に近い水にかかわる熱物性の研究分科会に合流する旨の説明があった。

**低温環境における熱物性の基礎と応用**

田中オーガナイザーより、資料 11-1-10-5-③に基づき、研究分科会の活動報告があった。平成 22 年は 9 月 11 日と 12 月 11 日に開催し、それぞれ 31 名と 18 名の参加者があった。資料には 12 月 11 日の参加人数が記入されていないが、18 名とのこと。2 月 18 日に研究分科会を開催の予定。玉川大学にて玉川学園の高校生を主な対象とした分科会を予定していて、科学への興味を掻き立てるような内容とのこと。分科会の成果を 2 件の査読付き論文にしたい。分科会のスライドと簡単な解説も公開する予定。海外での研究会の実施は次年以降にしたい旨の説明があった。

**宇宙材料の熱物性とシステムデザイン**

長坂前期事務担当より、資料 11-1-10-5-④に基づき、研究分科会の活動報告があった。オーガナイザーの主査が大西先生から田川先生と太刀川先生に交代したとのこと。宇宙機の熱設計をメインテーマに 3 回の分科会を行った。1 年継続とし、出版の準備も進めているとのこと。

**高温融体物性と材料プロセス**

柴田オーガナイザーより、資料 11-1-10-5-⑤に基づき、研究分科会の活動報告があった。2 回のフォーラムを開催し、熱物性シンポジウムでは関連する OS で 15 件程度の講演があり大変盛況であった。本年は 2 回程度の開催を予定している旨の説明があった。継続を希望し、了承された。

牧野役員より、分科会の活動の履歴を、学会として正式に取りまとめておくことが必要で、活動委員会にお願いしたいとの提案があり、桃木活動委員会委員長より了解され、了承された。

**1 号、2 号議案の承認の件**

高橋前期会長より、総会における 1 号、2 号議案の承認について説明があった。1 号、2 号議案の承認はやめて、報告のみとすべきではないかとの提案があったが、改めて考え直し、これまでどおり 1 号、2 号議案は承認案件として取り扱うことにした。従って会則の変更は必要ない旨の説明があった。

**(1 1) 共催・協賛関係**

長坂前期事務局担当より、資料 11-1-11 に基づき、共催、協賛関係について報告があった。第 48 回日本伝熱シンポジウム実行委員会からの依頼があり、本学会として協賛を承諾し HP へ記載したとのこと。

**(1 2) 会員異動および会費未納者の扱いについて**

長坂前期事務局担当より、資料 11-1-12 に基づき、平成 22 年 11 月～12 月の会員異動と年会費の未納者への対応について説明があった。退会者が多いように見えるが、一年の終わりにまとめて退会処理をするためである。会費未納者には全てメールを出し、会費の納付を促したとのこと。

**(1 3) 役員会等の年間スケジュール**

山田純事務局担当より、資料 11-1-13 に基づき、平成 23 年の学会スケジュールの案の説明があった。役員会の場所は、今後は豊洲キャンパスで行うことになった。日時について、シンポ講演申し込み期限とシンポ論文提出期限の延長についての記載は不要であるため、削除する旨の説明があった。